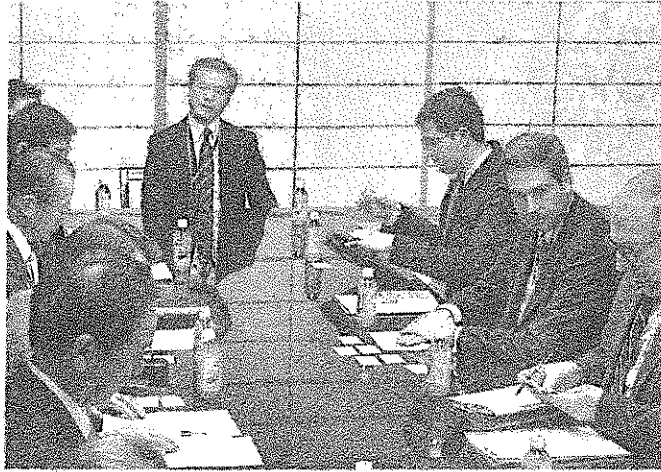


国会議連、1月訪欧へ



ILC実現に向け、オリヴィエ・ベシユト議員(右から2人目)に協力を要請する議連メンバー(左側)

議員の懇談 「前向きに支援」



【東京支社】国際リニアコライダー(ILC)の日本誘致を目指す超党派の国会議員によるリニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟(会長・河村建夫衆院議員)山口3区)は29日、国会内で、来日中のフランス国民議会(下院)のオリヴィエ・ベシユト議員と懇談した。議連は、ILC計画実現に欠かせない国際協力体制の構築に向け、来年1月上旬に欧州を訪問する方針。今回、フランスとの橋渡しを

要請し、ベシユト氏は「前向きに支援したい」と応じた。議連は、経済協力推進などを目的に来日したベシユト氏と、午前と午後に分かれて懇談。自民党の河村会長、塩谷立幹専任(衆院静岡8区)、平野達男氏(参院岩手選挙区)、藤原崇氏(衆院比例東北)らのほか、東北経済連合会の高橋宏明名誉会長も同席した。議連側はILCの意義や、加速器の初期整備延長短縮で建設コストが大幅に削減されることなどを説明。米国などに続き政治レベルの連携を進めるため、来年1月8〜12日にフランスやドイツを訪れることを伝え、協力を要請した。

本県と交流のあるフランス・アルザス地方の県議や市長などを歴任し、ILCに関する国際会議などにも出席したベシユト氏は「必要な計画であり、候補地の岩手にも良いこと。議員の仲間や国会と皆さんをつなげられるよう努力する」と答えた。河村氏は懇談後、岩手日報社などの取材に「計画に理解もあり大変心強い。2017年度内には日本政府が意思表示できるよう(訪欧で)日米欧の主要地域と連携を進めたい」と語った。ILCは宇宙の謎に迫る超大型の直線加速器で、本県の北上山地(北上高地)が建設候補地とされる。日本政府は、文部科学省の有識者会議などを踏まえ18年中にも誘致の可否を判断するとみられる。